

# 第6学年 図画工作科 学習指導案

## 題材名：「ザッツ！エンブレムⅡ」

- 1 日 時 平成28年11月25日（金）
- 2 学 年 第6学年1組 男子8名 女子4名 計12名
- 3 場 所 第6学年1組 教室

学校教育目標

「自ら伸びる」児童の育成

### 【みる・かく・つくる】

オリンピックのエンブレムの作品を見てそのよさや美しさを感じ、学んだことを生かして自分たちの思いをこめたエンブレムを表すことができる。

de

### 【人づくり】

鑑賞したことを生かし、詩やノートコンクールの取組で表彰者に送られるバッジのデザインを考えるなど、学校のリーダーとしての立場から学校生活をより楽しいものにしてしようとする。

## 題材について

本題材は、小学校学習指導要領の第5学年及び第6学年のB鑑賞

(1)「イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉えること。」〔共通事項〕(1)「イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。」に重点を置く。

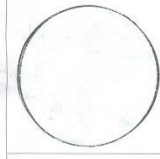
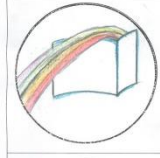
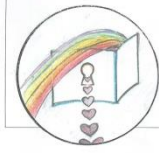
1学期児童は、東京オリンピックのエンブレムの最終候補に残った4作品を鑑賞し、「自分が審査員ならこれを選びたい」という視点で意見を出し合う活動を行った。その中でエンブレム作品の造形的な特徴を捉え、また作者が作品に込めた思いや審査員の意見を知ることを通して、それぞれの作品のよさや美しさを感じ取ることができた。さらに鑑賞したことを生かして、学校の取組である「詩の暗唱」や「ノートコンクール」の表彰者に与えられるバッジのデザインをすることに挑戦した。その際児童は、デザインが表している意味やそこに込められている自分の思いを明確にしてデザインを行った。

また児童は、そのバッジを受け取る時の全校児童の気持ちにも思いを馳せて様々な手がかりを見つけ、それを基に構想することができた。これはA表現(2)の「イ形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと。」をねらったものである。

今回はさらにそれらの作品を互選し合い、多様な見方や感じ方を出し合い認め合うことで、さらに表現力につながる鑑賞の能力を伸ばすことをめざしていく。

### エンブレム作成のための計画書

「ザッツ！エンブレムⅡ」計画書 6年( )

名前(いじり 詩の言葉)	説 明
	色 水色… 水たじ 形 構成・雰囲気など 空をイメージ
	色 赤… うれし 黄… 楽しい 緑… 心算 紫… 心算 形 にじみ… 詩 にじみ… 詩 にじみ… 詩
	色 レンガ… 色 形 ハート… 自分 構成… 雰囲気など

## 児童の実態について

本学級の児童は全児童が「図画工作科の学習は楽しい」と答えるなど、日頃から図画工作科の表現活動を楽しみにしている。その一方で鑑賞活動となると、自分の考えを表現することに戸惑いや抵抗を感じる児童が少なくない。児童の実態把握のために行ったアンケート結果は以下の通りである。

Aとても当てはまる Bまあまあ当てはまる Cあまり当てはまらない D全く当てはまらない (%)

質問 (回答者12名)	A	B	C	D
1 作品をみるのは楽しいですか。	33	42	25	0
2 作品をみて、その「よさ」や「美しさ」をみつけられますか。	42	33	25	0
3 作品をみて感じたことを、自分の作品に生かしたことはありますか。	25	58	17	0
4 自分の作品について、その意図や特徴をみんなに伝えられますか。	0	50	42	8
5 自分以外の作品のよさをみんなに伝えられますか。	17	50	33	0

このアンケートからも、作品を楽しくみて、そのよさや美しさをみつけられる児童は多いが、自分の作品の意図やその特徴を自分なりに言葉にして伝えることは、半分の児童が苦手意識を持っていることがわかる。また、自分以外の作品のよさをみんなに伝えることにも、3分の1の児童が抵抗感をもっている。

一方で「作品をみて感じたことを、自分の作品に生かしたことがありますか。」という項目には83%の児童が肯定的評価をするなど、他の作品のよさから学ぼうとする意識は高いことがわかる。「作品のどこがどのようによいか、美しいのか。」といったことを自分の言葉で表現することができるようになることで児童の多様な見方や感じ方が広がり、鑑賞の能力を伸ばすことにつながるであろう。さらに自分たちの作品や伝統的な作品を大切にしようとする態度を育むことにもつながっていくと考える。

本単元において、鑑賞の視点を児童に明確にもたせ、その上で自分の感じ方や見方を大切にしながら、お互いの感想を自由に言い合う活動を仕組んでいきたい。

## 指導（「みる」・「かく」・「つくる」）のポイント

指導にあたっては、まず「みる」ポイントとして、第1次で2020年東京オリンピックのエンブレム選定において最終候補に残った4作品を、「自分が選定委員であったらこの作品を選びたい。」という視点で鑑賞する学習を行った。この時、作品に込められた作者のそれぞれの思いに触れたことにより、児童の多くが授業の初めは1番人気のなかった「組一松紋」を授業の終わりでは選択した。対象に社会的な意味づけをしたり、作品の意図を理解し共感したりしたためと考えられる。また第2次では「かく」「つくる」ポイントとして、この経験を生かし、学校の取組である「詩の暗唱」「ノートコンクール」の表彰者に送られるバッジを、各自が意図をもってデザインする学習を行った。この時児童は、学校のリーダーとして様々な場面で動いてきた今年度を振り返り、「がんばっている下級生へエールを送る。」という気持ちを込め、また自分らしさを表すことを目標に取り組んでいた。

そして今回の第3次の学習では、自分たちがつくった作品を「みる」ことを通して、第1次の鑑賞よりもより多様な見方や感じ方で対象を検討することができると思う。すなわち自らが意図をもってデザインしたことにより、友達の意図や工夫について共感をもって捉えることができるということである。また作品がつくり出される過程においても友達と話し合ったり見合ったりするという経験を持つことで、作品を鑑賞する友達の感じ方に深く共感し、自分の考え方をより確かなものにすると考えられる。

# 題材の目標及び評価規準

## 【題材の目標】

- 東京オリンピックのエンブレム作品の鑑賞から学んだことを生かして、学校の取組にふさわしいバッジのデザインを工夫して表現するとともに、お互いのデザインについて交流することを通して、よさや美しさ、表現の意図などに気付くことができる。

## 【評価規準】

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックのエンブレムに興味を持ち、表現の工夫や作者の意図を感じ取ろうとしている。</li> <li>・友達の表現をみて感じたことや思ったことを話し合い、それぞれのよさや美しさ、表現の意図や特徴を捉えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞したことを生かしながら、学校の取組にふさわしいデザインを考えたり、色や構成などを考えたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の表したいイメージに合うように、形や色の美しさやおもしろさ、用途などを総合的に考え、表し方を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックのエンブレムにふさわしい形や色・表し方のよさ、作者の意図を感じ取っている。</li> <li>・友達の表現をみて感じたことや思ったことを話し合い、それぞれのよさや美しさ、表現の意図や特徴を捉えている。</li> </ul>

# 指導と評価の計画

(全5時間)

次	学習内容	評価の観点				評価規準 (評価方法)
		関	発	創	鑑	
1 (1)	・オリンピックのエンブレム最終候補4作品を鑑賞してそれぞれのよさや美しさに気づき、表現の意図や特徴について話し合う。	○			◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックのエンブレムに興味を持ち、表現の工夫や作者の意図を感じ取ろうとしている。(行動観察)</li> <li>・オリンピックのエンブレムにふさわしい形や色・表し方のよさ、作者の意図を感じ取っている。(発言・付箋)</li> </ul>
2 (3)	・学校の取組である詩の暗唱や読書の表彰の際に送られるバッジをデザインする。		○		◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色の美しさやおもしろさ、用途などを総合的に考え、伝えたいイメージに合うように、表し方の工夫を考えている。(発言・ワークシート・行動観察)</li> <li>・自分の表したいイメージに合うように、形や色の美しさやおもしろさ、用途などを総合的に考え、表し方を工夫している。(作品)</li> </ul>
3 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの表現を鑑賞し合い、表現の意図や特徴のよさや美しさを捉える。</li> </ul> <p>5 / 5 (本時)</p>				◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の表現から感じたことや思ったことを話し合い、それぞれのよさや美しさ、表現の意図や特徴を捉えている。(発言・ワークシート)</li> </ul>

# 本時の学習

## (1) 本時の目標

自分たちがデザインした「詩の暗唱」「ノートコンクール」の表彰者に送られるバッジを鑑賞し、それぞれのよさや美しさを感じ合い、友達と話し合うことによって表現の意図や特徴などを捉えることができる。

## (2) 準備物

(教師) プロジェクター、パソコン、付箋、ワークシート

(児童) 自作のエンブレムの作品

## (3) 本時の学習展開

学習活動	◇指導上の留意点 (◆Cと判断される児童に対する手だて)	評価規準 (評価方法)
1 本時の課題を確認する。	◇児童の全作品を順に掲示し、それぞれの作品から感じられる意図やよさを付箋に書かせる。	■
<b>友達のバッジのデザインのよさや工夫を見付けよう。</b>		
<p>2 自分がデザインしたバッジのプレゼンテーションを行う。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px; writing-mode: vertical-rl;"> <p>児童作品例 題「心にひびく詩の言葉」</p> </div> </div>	<p>◇パワーポイントを示しながら、自分のデザインについて説明し、自分が欲しいバッジのデザインを選ぶことを確かめる。</p> <p>◇全員がプレゼンテーションによって自分の作品をアピールし、お互いの作品のよさや美しさを感じることができるようにする。</p> <p>◇パワーポイントを用いて、作品が出来上がるまでの過程を3段階に分けて提示し、それぞれの段階での「色」「形」「構成」の意図や工夫について、また作品に込められたメッセージについて説明する。</p> <p>◇それぞれの表現の意図や特徴、よさや美しさが大事にできるように声かけをする。</p> 	<p>① (色) バックの色は水色で、詩を読んだ後の空の様に澄んだ心を表しています。</p> <p>② (色) 虹の赤は嬉しい詩、黄色は楽しい詩、緑は心が温まる詩、青は悲しい詩イメージしています。 (構成) 虹を刺繍の奥から出すことで奥行きを見せています。</p> <p>③ (形) 自分が詩から受けた影響をみんなに伝えています。</p>

3 プレゼンテーションを聞き、新たに気付いたことや感じたことを色違いの付箋に書く。

この作品は、遠近法を使っていて、立体的に描いているところがいいな・・・。

◇デザインの意図を知ること、作品に対する見方や感じ方は当然変わることを知らせる。

◆何もみつけられない児童には、色・形や構図など、自分が好きだと思うところを見つけるよう声かけをする。



「詩を読むことで空の様に大きな心をもってほしい」というメッセージが伝わってくる。すごいな！

4 学級全体で鑑賞を行い、思ったことや感じたことを交流し合う。

授業の最後において、様々な観点から書かれた意見や感想を書いた付箋が、すべての作品に寄せられた。多くの児童が、ふり返りカードに「どの作品をもらっても、とてもうれしい」という感想を書いていた。

◇疑問に思ったことを質問したり意見を言ったりすることで、友達の考え方に共感させるとともに自分の考え方を確かなものにさせる。



(板書)

・友達の意見を聞いて感じたことや思ったことを話し合い、表現の意図や特徴をとらえている。  
(発言・ワークシート)

5 どの作品を選びたいかを交流し合う。

◇多様な見方や考え方を認め合い、鑑賞を深められるようにする。

6 本時のまとめをする。

◇活動の振り返りをさせ、今後の表現活動、鑑賞活動に生かせるようにする。

○バッジのデザインや色に、思いが込められていることが分かった。

【◎成果と●課題】

- ◎製作過程を3段階に分けて提示したことで、「色」「形」「構成」の視点が、より明確に伝わった。
- ◎「全校児童の表彰のため」という目的意識が製作意欲に結び付き、鑑賞する際には、より主体的に学ぶ意識を高めることができた。
- ◎表現と鑑賞の一体化を目指した単元構成により、両方が相互に関連して働き合うことができた。
- 全作品を紹介したため、交流する時間が少なくなった。その為意見を十分深めることができなかった。時間配分の工夫が必要であった。